

バックドアスカッフプロテクター 取付要領書

| 車名 : デリカ D:5 | 年式 : 26.01- | 適合 : ALL |

このたびは、ジャオスの商品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
本書は「バックドアスカッフプロテクター」の取り付けについて記載してあります。
商品を取り付けるまえに必ずお読みいただき、正しく取り付けを行ってください。

商品の取り付けには危険を伴う場合がございますので、専門知識を有する自動車用品販売店
または自動車整備工場での取り付けを推奨します。



商品の取り付け完了後、本書を必ずお客さまにお渡しください。



取付参考時間 : 約0.5時間

構成部品

※商品を取り付けるまえに商品の状態（破損や故障）と付属品の有無をご確認ください



No.	品名	数量
①	バックドアスカッフプロテクター	1

商品は改良のため仕様および形状などを予告なく変更することがあります。

取り扱いおよび使用上の注意事項

- 水貼り（霧吹きを使用する貼り方）は、製品が変色（白化）するおそれがあるため絶対にしないでください。
- 取り付け前に貼り付け部の汚れを脱脂材などで除去してください。
- ボディ温度（環境温度）が15°C以下ではテープの接着力が低下するため、製品の粘着面および貼り付け部をドライヤーなどで温めてから取り付けを行ってください。
- 取り付け完了後、24時間以内は水濡れに注意してください。浮きやはがれの原因になります。
- 本製品への加工や取り付け不良、誤った使用により発生した不具合および事故につきましては一切責任を負いません。
- 事故や接触などにより破損または変形した場合は、危険なため取り外してください。
- ケミカル製品およびガソリンやシンナーなどの溶剤が付着すると、シミや膨れが発生する原因となります。誤って付着した場合はすぐに拭き取ってください。
- スキージーを使用する場合は誤ってボディや製品にキズがつかないように十分注意してください。
- 長時間、雨水など水分が付着した状態に置かれた場合、表面が白く濁ることがありますが、使用している材質（PVC）の特性で異常ではありません。乾燥すると復元します。

保証について

- 初期不良の保証…お届けから1週間以内
商品の破損、不具合などトラブルがあった場合、初期不良の保証対象として修理、代品交換、返品を承ります。
- 製品保証…弊社オリジナル商品をご購入より1年間 ※ただし、期間内でも走行距離20,000kmまで
初期不良に該当する場合や一部消耗品を除き、購入履歴をお調べし規定に従い保証いたします。

① 保証についての詳細はJAOSオフィシャルサイトをご参照ください。【保証について】 www.jaos.co.jp/support/policy ▶

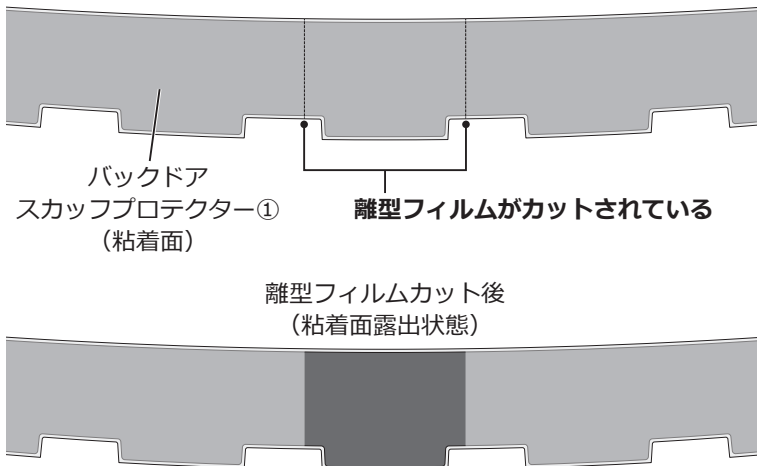


取付要領

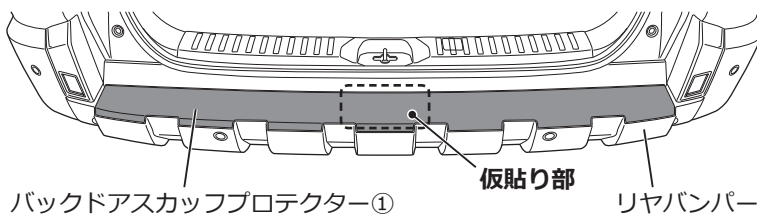
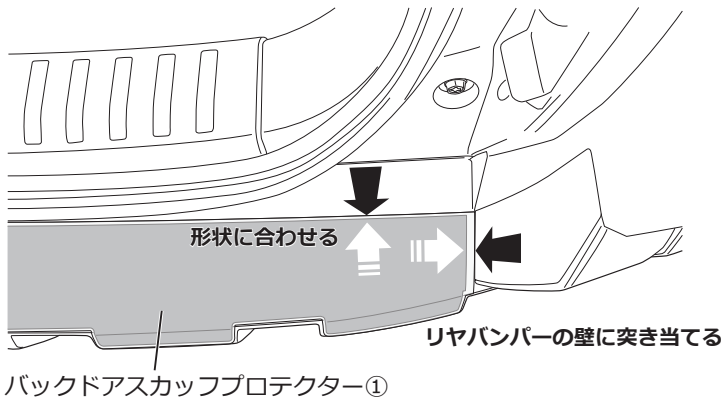
※図中や文中の○数字は構成部品のナンバー ●数字は作業の順番を示しています

1. 貼り付け手順

バックドアスカッププロテクター①：ウラ側中央部



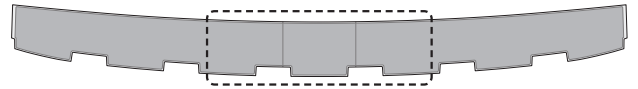
右側図示 ※左側も同様



A-A断面 ※③～⑤同様



視点



□バックドアスカッププロテクター①をリアバンパー上部に仮あて、貼り付け位置を確認します。

□貼り付け部を清掃・脱脂し、汚れや油分を取り除きます。

! **注意** 清掃・脱脂が不十分な場合、両面テープの接着が悪くなり、浮きやはがれ、脱落などの原因になります。

□バックドアスカッププロテクター①中央部の離型フィルムをはがします。

! **注意** 表側のアプリケーションフィルムは、位置決めに使用するため絶対にはがさないでください。

粘着面に触れないよう注意してください。接着力が低下する原因になります。

□図を参照し、バックドアスカッププロテクター①片側のアプリケーションシートをリアバンパーの形状に合わせます。

! **注意** 貼り付け位置を決める際に、左図の「仮貼り部（中央部）」が貼り付かないよう注意してください。

□片側の位置が決まったら反対側を調整し上下左右のバランスを整えたら、位置がずれないように「仮貼り部（中央部）」を貼り付け仮固定します。

□バックドアスカッププロテクター①の離型フィルムを中央から外側に向けて図の順にゆっくりはがしながら、ボディになじむよう圧着します。

□貼り付け完了後、表側のアプリケーションシートをはがします。

! **注意** 接着面に空気が入ると熱で膨らみ、浮きやはがれの原因になります。貼り付ける際は外側に向けて空気を押し出すように圧着してください。

貼り付け状態の確認



注意

作業後は必ず貼り付け状態を確かめてください。貼り付け直後は車両の移動による強い振動や風圧に注意し、力を加えたり洗車や雨による水がかからないようにしてください。